

人体を基にした指事字

大 夫 立
天 土 要
女 母 身

大は、手足を“おおきく”広げた形で、“おおきい”という意味を表わしています。

夫は、人の頭に冠を加えて、“成人”の意味を表わした字です。昔は、成人式に初めて冠をかぶったからです。丈夫。夫婦。

立は、大の下に大地を加えて、“たつ”ことを表わした字です。

並は、竝の略字で、人が二人“ならん”で立っていることを表わした会意字です。

天は、大の頭のでっぺんに一を加えて、“頭の顛いただき”を表わした指事字です。顛と天とは同音同義の字ですが、天は、転じて、頭の上

に広がる空の意味に用いられるようになり、天の本義は顛が表わすようになりました。

士は、端然と坐っている人の形で、“成人”または“役人”であることを表わしています。紳士。武士。

仕は、人が役人として“つかえる”ことを表わした会意形声字です。仕官。

要は、手(ヨ)を腰にあてている形で、“こし”という意味を表わした指事字です。腰は、人体の要点なので、今の「重要」という用法が生まれました。

腰は、要が「重要」の意味に用いられるようになったため、肉を加えて“こし”の意味を表わしたものです。

母は、女に乳房を表わすしるしを加えて作られた指事字です。

身は、妊婦を横から見た形で、「娠」の本字です。今は「体」(身体)の意味に使われるようになったので、娠が作られました。娠は**媯**の意味です。